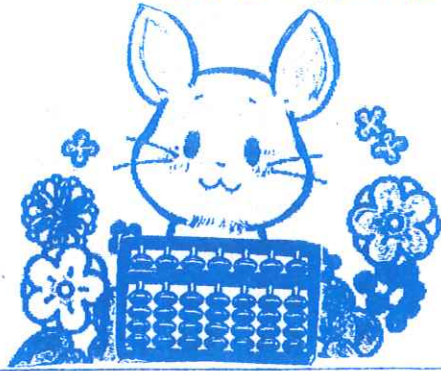


どの子も「珠算式あんさん」のできる子に!

大阪山本速算会



まぼろ

発行：大阪山本速算会事務局(大西信二)
大阪府守口市大久保町5-7-9

【珠算式暗算と大脳の働き】 脳の老化を抑える・・・ソロバン学習

ソロバン学習は、左右の脳を同時に活性化させることができるので、年齢に関係なくソロバン学習を行うことが大切です。特に人間は誰でも、使わない脳の領域は滅失していきます。ソロバン学習により指の繰り返し練習で、目・耳・指の脳神経を同時に働き、各脳細胞が活性化になります。その繰り返し練習により、さらに大脳を活性化させ、脳の老化を抑えます。加齢が進むと、身体は日々衰えますが、脳も身体の一部であり、老化して脳細胞も日々減ります。身体の細胞が減れば、まだ増えますが、脳の細胞は増えることはありません。そのため、できるだけ減らないように訓練をすることが大切です。

また、脳の細胞は減っても、そこから伸びる枝があり、訓練をすれば、どんどんその枝を伸ばすことができます。その訓練には、左右の脳を活性化させる「ソロバン学習」が大切であると、大脳生理学者のおすすりです。左脳は「しゃべる」ことで活性化しますが、右脳は「考えたり」「イメージしたり」することによって維持します。「考えたり」「イメージしたり」などを司る右脳の機能の欠落が、加齢と共に進んでいきます。そのためにも指先を決められた方法(一珠、五珠を親指と人差し指)で繰り返しするソロバン学習が脳の老化を抑えるには適していると言われています。



新入生受付中

文化の秋、珠算の秋
◇入学日：十一月一日～十日
◇年長児・小学一年生から

主催・日本伝票算検定協会
後援・日本珠算連盟

伝票算検定試験

伝票暗算検定試験

◇試験日：十月九日(土)
◇試験場：大阪山本速算会
◇申込期日：十一月二日(水)



日経新聞の「トキコエテ」からのウエイブサイドから
「そろばんで培う反応の早さ バスケと共通 プロ選手語る」

インタビュー Bリーグ 竹内 譲次さん

次々と数字をはしく珠算は集中力が求められる、子どもの頃に習っていたというアスリートも少なくない。プロバスケの男子Bリーグ選手の竹内譲次選手(大阪エヴェッサ所属)も小学生の頃にそろばん教室へ通った。

「素早い反応が求められるところは似ています」とそろばんとバスケの共通点を語る。

「そろばんを習っていたのはいつごろですか?」

「小学生の頃からラクビーを習うなど体を動かしていましたが、勉強にも力を入れる家庭でした。そろばんは、低学年から小学6年生まで家の近くの教室へ通っていました。友達とおしゃべりしながら通うのが楽しく、嫌だと思ったことはなかったです。2桁かける2桁の暗算計算が求められる2級まで合格しました。そろばんのおかげで、算数は得意科目でした。」

「バスケとそろばんに共通点はありますか?」

「そろばんは先生が出す問題を素早く反応して指を動かしますね。バスケも味方や相手の動きでどんどん変化する状況に素早く反応して指や体を動かさないといけません。求められることはそろばんよりバスケの方が複雑と思いますが、正しいアクションを瞬時にしなければならないという意味で共通しています。また試合中、相手の選手が何本シュートとてその成功率を応じてのリバウンドなどの動きも変わり、そういう計算も頭の中で素早くすることも役立ちます」

「そろばんの経験がバスケに生きていますか?」

「間接的には生きています。そろばんは指先を使いますが、バスケもシュートやパスなどボールタッチの最後の瞬間は指先の動きが大事になります。そういう意味で、幼い頃から指先を動かす習い事ができたのはよかったです。バスケとは関係ないですが、日常生活で『計算が速いね』と言われることがありますね。」

竹内譲次(たけうちじょうじ)選手 1985年生まれ。大阪府出身。高校時代から双子の兄、公輔選手と共にバスケ界では注目を集め、大学在学中から世界選手権に出場するなど万能型のプレーヤーとして日本代表の中核を担う。プロバスケットチームの日立サンロッカーズ、アルバルク東京を経て2021年から現在は大阪エヴェッサ所属。